

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果の分析【国立中学校】

4月19日(火)に全国学力・学習状況調査(国語・数学・理科 ※理科は4年に一度実施)が、3年生を対象に実施されました。実施時間については、国語・数学・理科すべて50分間で、内容は、知識に関する問題や活用に関する問題が織り交ぜられた形で出題されました。加えて、アンケート形式の生徒質問紙で、生活の様子、学校や家庭での学習状況等を問う調査も実施されました。

以下に、本校の今年度の結果の分析をお知らせします。

学力状況の結果について、まず平均正答率で見ると、国語は全国平均を少し下回りましたが、大阪府平均と同程度、数学・理科は、大阪府および全国平均を上回りました。ついで無回答率で見ると、各教科とも大阪府や全国に比べて無回答が少なく、生徒は諦めずに問題に挑戦していたことが見受けられました。また、無回答率が高くなりがちな「説明や自分の考えを記述する問題」に関しても、大阪府および全国平均に比べて低い結果になりました。ここ数年本校の課題であった、知識や技能を活用する力や表現力の向上に向けての成果と、問題を諦めずに解こうとする生徒たちの姿勢が、この結果につながったと考えられます。今回の調査結果を、今後日々の授業に反映したいと思います。

また、生徒質問紙の結果を大阪府や全国と比較した結果、本校では次のような特徴が見られました。

<肯定的な回答の割合が高い質問項目>

- ・将来の夢や目標がある(全員が"ある"と回答)
- ・いじめを認めない
- ・友達と協力するのが楽しい
- ・勉強のわからないことを自分で解決する
- ・地域の行事などに積極的に参加する
- ・さまざまな学校の活動の中で、自分の考えを発表したり、話し合ったりする活動に積極的に取り組んでいる
- ・道徳の授業で、自分の考えを深めたりグループで話し合ったりする活動について積極的に取り組んでいる



<肯定的な回答の割合が低い項目>

- ・携帯電話を長時間使用する(一方"ほとんど使用しない"の割合も高く、2極化の傾向)
- ・先生は自分の良いところを認めてくれる
- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する
- ・自分と違う意見の人と交流することは楽しい
- ・読書をする(家にある本の量も少ないようです)
- ・ICTが勉強の役に立つ
- ・1・2年生の時の授業が、自分にあっていた
- ・勉強が大切だと思う
- ・授業内容がよくわかる



◆続いて、各教科の分析です◆

【国語】

平均正答率と比較すると、本校の平均正答率は全国の平均を少し下回りましたが、大阪府平均とほぼ同程度という結果でした。領域別では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「我が国の言語文化に関する事項」が大阪府および全国の平均を上回りましたが、「情報に関する事項」においては、大阪府および全国の平均を下回りました。問題形式別に見ると、記述式の問題の平均正答率が全国および大阪府の平均を上回り、「書くこと」に関する力の定着も窺えます。

今回の結果を受けて、文章を読む際の工夫や、文章中に出てくる語句の意味を考え、登場人物の心情や作者の意図を掴み、自分の考えを持つことのできる授業づくりや課題設定をしたいと思えます。

【数学】

平均正答率と比較すると、本校の平均正答率は、大阪府および全国の平均を上回る結果となりました。領域別に見てみると、「数と式」、「データの活用」の分野では全国平均を上回り、「図形」、「関数」の分野では、全国平均を下回る結果となりました。設問ごとに見てみると、「数と式」の分野で、素因数分解の問題や、連立方程式を解く問題で、特に正答率が高い結果となりました。反面、「関数」の分野では、適切な関係を表した表を選ぶ問題や与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取る問題、「図形」の分野では、筋道を立てて考え事柄が成り立つ理由を説明する問題の正答率がそれぞれ全国平均を下回っており、課題の残る結果となりました。総合的に見て、数学的な知識・技能に関しては一定の成果は出ていると考えられます。日頃から、授業の冒頭の小テストなどで基礎基本の定着を図り、修得した知識・技能の活用を促す課題設定などに取り組んでいる結果であると考えられます。

今回の結果を踏まえて、今後さらに知識・技能の確実な定着を図り、「筋道を立てて考えること」や「自分の考えを、根拠をもって説明すること」を大切にしたい取り組みをすすめていきたいと思えます。

【理科】

本校の平均正答率は、大阪府および全国の平均を上回る結果となりました。領域別にみると、「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域は大阪府および全国平均正答率を上回り、「エネルギー」を柱とする領域は大阪府および全国平均と比較すると低い結果となりました。設問ごとに分析すると、「ばねののび」「地層」に関する設問の知識を要する問題の1年生で学習する分野に関して、平均正答率が大阪府および全国平均を下回りました。また、調査全体を通して実験の課題を指摘し、仮説に対して正しい考察を行う設問について課題が見られました。

今回の学力調査の結果から、知識・技能に関しては、一定の成果は見られました。しかし、実験の予想や仮説をたて、得られた結果から分析し考察する力が必要な設問に関して課題があることが分かりました。そのため、得られた知識等を使って「科学的な探求」を行う授業を進めていく必要があると考えています。

